

秋枝俊充さん Uターン

角島ジェラート  
POPORO 専務。  
父母とともに地域  
活性化のため奮闘。

ケイさん Iターン

もともと東京でシェア  
ハウスを経営していた。  
シェア&ゲストハウス  
Sumikko オーナー。

むっちゃん Iターン

工事現場管理、製造業  
勤務を経て、現在は  
Sumikko の運営に  
携わる。

秋枝美香さん Iターン

角島ジェラート  
POPORO 代表。  
震災を機に宮城県から移住。  
看板作成の発案者。

秋枝博之さん Uターン

角島ジェラート POPORO  
統括マネージャー。

エリさん 移住検討中

Sumikkoで暮らす、今  
まさに移住検討中の方。

# 人が人を呼ぶ

「自然と文化に恵まれた海峡と歴史のまち・下関。美しい景観や深い歴史など、その魅力もさることながら、移住者たちが感じたもう一つの魅力。それは、そこに暮らす「人」でした。」



豊北町島戸地区。県内でも有数の観光地の一つ角島大橋の近くに位置する港町です。

今回お邪魔したのは、移住者が集まるジェラート屋さんポポロ。インタビュを通じて、少子高齢化が進む中「地域を感じてもらいたい」と、この地に移住した方が手掛ける取り組みをご紹介します。

## 家あるけど、使うか？

**ケイ** 私は移住先を探していて、天草か、沖縄か、海がきれいな所に住みたいと考えていました。下関に来たのは、関東から天草に行く途中に、友達に会いに寄ったことがきっかけでした。それまでまったく知らなかったのですが、来てみると海がとてもきれいで。

そこで、豊浦町に移住した辻翔平

さんの工房を見学する機会がありました。辻



さんのおかげでたくさんの人とつながることができたし、さらに「家あるけど使うか？」と、なんと家まで紹介していただきました。

**むっちゃん** 下関に来る前は、長門のまちづくりに関わっていました。古民家改修の経験があったので、Sumikkoの話聞いて、おもしろそうだなと思い、手伝うようになりました。

**ケイ** いろいろピースがそろって、「これはやらんといけんのじゃないの」と、移住を決意しました。まさに、きっかけは人です。

▲市報しものせき令和4年11月号で紹介

## 移住する人が増えてくれたら

**ケイ** Sumikoがきっかけで移住してくれた人もいます。

**むっち** 子どもの頃に家族旅行で角島大橋に来たことが印象に残っていたそうで、男2人自転車旅で神奈川から下関に来てくれました。

**ケイ** 1週間ぐらい滞在した後、そのうちの1人が「ここに残りたいです」と。その理由が、私たちのことが大好きになったということ、うれしかったですね。

**むっち** 彼は次の日からバイトを探し、今はSumikoのスタッフとして一緒に暮らしています。



## 自作の看板に込めた想い

**博之** 写真のモデルは三男の俊充とその嫁と孫です。お食い初めの帰りに写真を撮ろうという話になって。嫁の妹が撮ってくれました。

**美香** 看板を作ろうと思って写真を撮ったわけではないのですが、写真がとても気に入って、看板を作ることにしました。

**俊充** 自分の子ども世代は、同級生が豊北町内で7人。友達の家遊びに行くことすらできなくなるのではという不安があります。

**美香** 人口減少は大きな問題です。**ここに移住してきてほしい**という思いがあります。自分の子どもが地元を振り向いてくれなくて誰が振り向いてくれるだろう？ そう考え、まずは娘を引きずり込み、そして息子を引きずり込み…。

**俊充** 家を取り壊されてスカスカになっていく地域の現状を見て、このままではまずいと感じました。**田舎の特権**、例えば、都心部ではしにくいバーベキューなど、**体験できる強みをアピール**できたら、住みたいと思ってもらうきっかけになると思いました。

**美香** 息子が改修したガレージで、スイーツラボという体験型のメニューを始めました。観光で来た方たちに、もっとのんびり滞在してもらいたいという思いです。

**俊充** ただ過ぎ去って行く場所で終わらないように、ジェラートを食べさせてさようならではなく、ゆっくり過ごしてもらおうことで、**島戸の良さを感じてもらいたい**です。

## 「じいじ喜ぶそう、島戸」

**俊充** 自分たちが住んでいるのは島戸です。自分たちの足元を見て、**できる範囲のことをおのおのがや**っていくことで、相乗効果が生ま



れるんじゃないかなと思います。

**むっち** 他の地域にはまた別の資源がありますし。そうすることで**地域が一体となって盛り上がり**ていくと思います。

**ケイ** Sumikoに1週間してもらえたら、いろんな人と話をして人**とつながる機会をつくりたい**です。1日でも長く島戸にいて、島戸を感じてほしい。2泊目から安くなりますよ。今はエリちゃんに、良い所だよとアピールしています。

**俊充** 父母が、人を呼び込んでくれる場所をつくってくれたので、これを利用して島戸を活性化させていきたいです。

**美香** ここで暮らしている人の課題は一緒なんです。人がいない。**みんなで助け合いながら、知恵を絞って解決して**いけたらいいなと思います。





●セミナーの様子。渋谷ヒカリエ8階 d47食堂に、35人が集結。



●打ち合わせの様子。立ち話で事が決まることも多かった。

## 人が人を呼ぶ 移住定住施策

それぞれの地域には、その地域固有の課題があります。人口減少が進む中、その地域に住む人だけでは解決し難い課題もあるのではないのでしょうか。

令和5年11月18日、東京都渋谷区、渋谷ヒカリエ8階にあるd47食堂。ここで、下関への移住を検討している方を対象にした移住セミナーが開催されました。

### セミナーに来てくれた方と直接つながりたい

このセミナーの狙いの一つが、移住をしてきた後に一緒に地域づくりを担ってくれるような、プラスアルファの効果をもたらす人の獲得です。



共創イノベーション課  
松本 勇弥 主任

## 注文しない、民間の強さを活かす

「地域が抱える課題を一緒に解決してくれる人に、移住をしてほしい」そのために必要なのは、**地域の人を紹介すること**だと、共創イノベーション課の松本勇弥主任は考えました。

「10人移住させる、ではなく、1人のこの人に来てもらいたいというメッセージを打ち出す。そうすると、あの人が移住した下関ってすごいらしいよ、と、ここから100、200に広がっていく。そういうイメージを持って取り組んでいます」

地方創生事業を推進した経験を生かし、地域活性化起業者として活躍する瀬川康弘さんは、「下関には**地域のポテンシャルを生かそう**と動いている人たちがいます。賛同して、一緒に伴走しながら、その人たちの動きを発信して応援していきたいです」と話します。



地域活性化起業者  
瀬川 康弘 さん

### 田舎暮らしの本

2024年版 第12回  
住みたい田舎ベストランキング

- ▶総合部門 **第2位**
- ▶シニア世代部門 **第1位**
- ▶若者世代・単身者部門 **第2位**
- ▶子育て世代部門 **第4位**



### メディアの視線もアツイ！

#### いい部屋ネット

- ▶街の住みこちランキング **第3位**  
2023<山口県版>
- ▶住み続けたい街ランキング **第2位**  
2023<山口県版>



●懇親会。予定になかった二次会へも8割が参加。

●全員で集合写真。後日、参加者3人がお試し暮らし制度を利用し下関を訪れた。

▼当日上映した動画  
YouTube 下関市シティアプロ  
モーシヨ公式チャンネルへ



mizuirogaro  
大佐 さん

「とにかく演出をしないことを大切にしました。普段通りの下関の風景を伝えたかったです。海の漁師、川の漁師、山の猟師。ありのままを伝えたくて、取材で見たそのままを、ただ撮ってつなげました」

### 進む公民共創

地元の公務員、民間企業の方、そして実際に下関に移住した方。セミナーでは、立場の違う3者が登壇し、それぞれの視点から自らの取り組みについて語りました。

セミナーで上映する動画制作を手掛けた、大佐こと山本湧貴さん。どんな思いで制作に臨んだのでしょうか。

## 自分たちを信頼して委ねてくれた

公と民とがビジョンを共有しながらそれぞれの強みを活かし、共に作り上げた移住セミナー。参加された方の中には、下関に移住した後の生活までイメージできた方も多かったのではないのでしょうか？



金剛住機株式会社  
木村 大吾 支店長

企画運営の中心を担った金剛住機株式会社の木村大吾さんは、セミナーをこう振り返ります。「市の実施要領を見て、担当者の温度が伝わってくる良い文章だと思いました。一緒にやってくれる人を募集します、というメッセージ。発注者と受注者の関係ではなく、チームとして、協働して響き合ったからこそ、条件を超えたより良い価値が生まれたと思っています。こんなふうに参加を入れて応援してくれる公務員がいることを、皆さんにも知ってほしいですね」

### 新しい取り組みを紹介！

※一部です

#### お試し暮らし物件創出事業 (460万円)

もっと、下関での移住体験を！未利用の不動産や空き部屋を活用して、リノベーションを推進し、お試し暮らし施設を拡大します！

#### 圏共創イノベーション課 (☎231-5838)

#### 下関暮らしサポート事業(600万円)

家賃の一部を助成します！移住相談窓口などを通じてUJIターンした世帯主の年齢が39歳以下の世帯や、中学生以下の子どもがいる世帯を支援します！

#### 移住定住トータルサポートセンター運營業務(1,900万円)

「試す」、「住む」、「働く」など移住に関するさまざまな相談に対応！ワンストップでの紹介が可能な、移住者と地域をつなぐトータルサポートセンターを設置し、相談窓口の機能強化を図ります！